

普天間飛行場の歴史的経緯

- 1945年 4月1日 太平洋戦争時、米軍の沖縄本島上陸により沖縄戦開始
- 6月頃 米軍に土地を接收され、本土決戦に備えて普天間飛行場建設開始
- 6月23日 沖縄戦での組織的戦闘が終了
- 1962年 市制施行の年、米軍が基地のフェンス設置開始
- 1972年 5月15日 沖縄の本土復帰
- 1975年 市の人口が5万人を超える
- 1978年 ハンビー飛行場の返還に伴い、その基地機能が普天間飛行場へ移され、現在のような運用形態へ

SACO 合意から 21 年… 進まぬ普天間飛行場返還問題

◆これまでの経緯

- 1996年 12月 「SACO最終報告」で「今後5年乃至7年以内に、十分な代替施設が完成し運用可能になった後、普天間飛行場を返還する」と合意
- 2004年 8月 沖縄国際大学へ米軍ヘリが墜落
- 2006年 5月 在日米軍再編協議最終報告（日米ロードマップ）において、普天間飛行場代替施設の建設は2014年までの完成を目標とすることを合意
- 2011年 6月 「2+2」において、日米ロードマップで合意された、普天間飛行場移設・移転の2014年の目標を見直し、出来る限り早く完了することを確認
- 2012年 10月 MV-22 オスプレイの配備が開始（2013年9月配備完了）
- 2013年 4月 日米両政府による統合計画において、普天間飛行場の「2022年度またはその後」の返還時期を公表
- 2014年 2月 沖縄県知事、宜野湾市長連名で、普天間飛行場の5年以内の運用停止、早期返還などを政府に要請
- 2014年 2月 第1回普天間飛行場負担軽減推進会議が開催
- 2014年 8月 普天間飛行場所属のKC-130 空中給油機全15機の岩国飛行場への移駐完了
- 2015年 12月 日米共同報道発表において、普天間飛行場東側の土地（約4ha）の返還に向けた作業を加速することを確認

